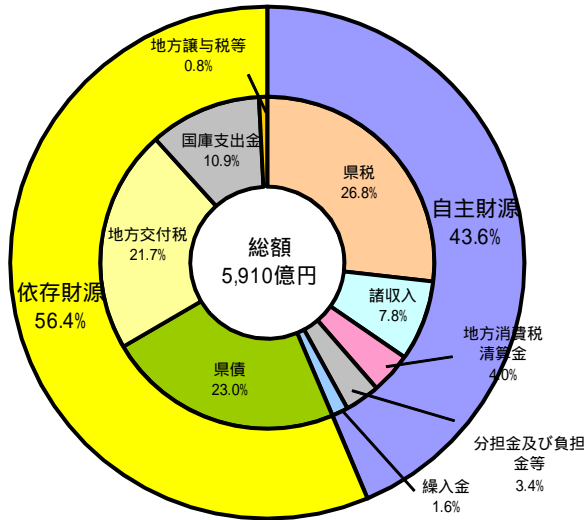


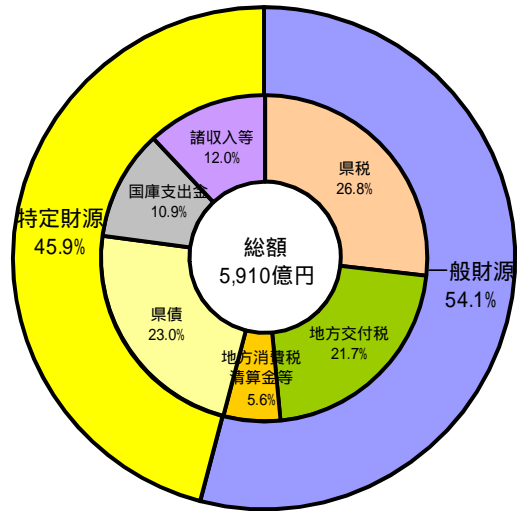
歳入、歳出それぞれについて詳しく教えてください。

一般会計歳入の状況 (H19 決算)

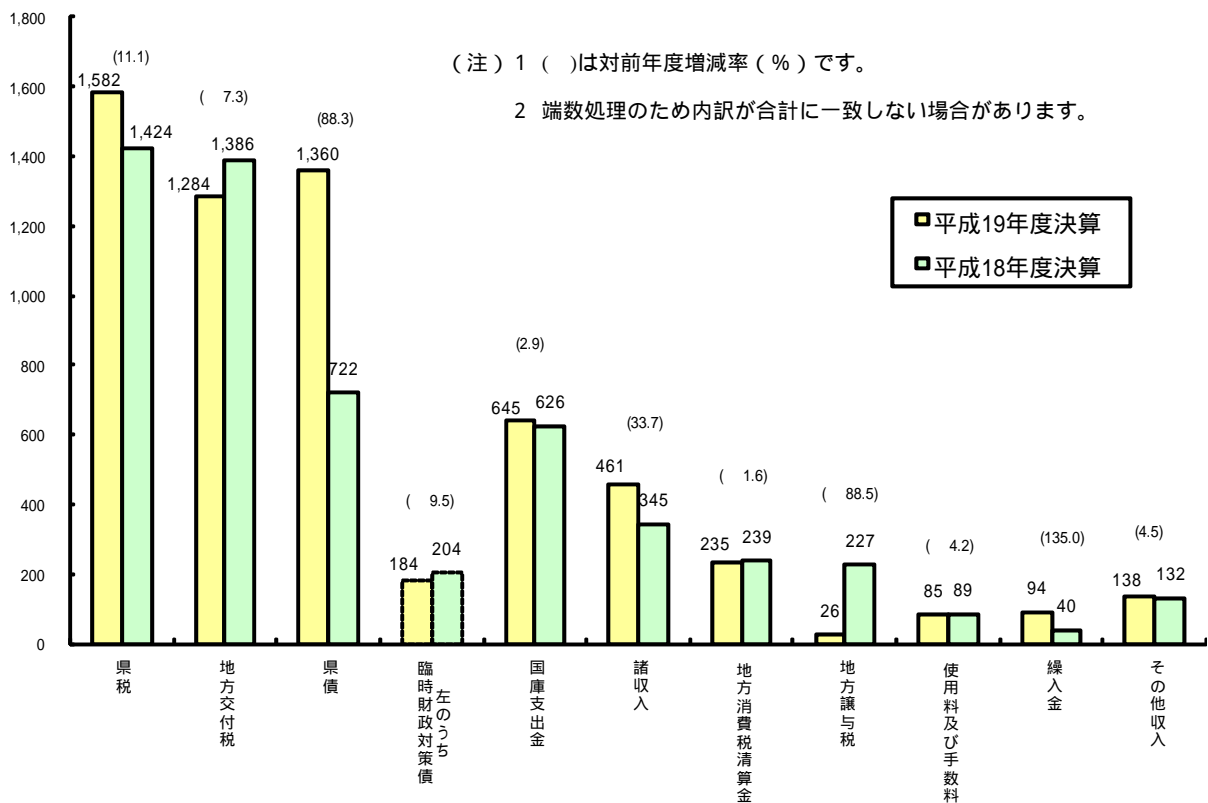
歳入自主財源・依存財源別



歳入一般財源・特定財源別

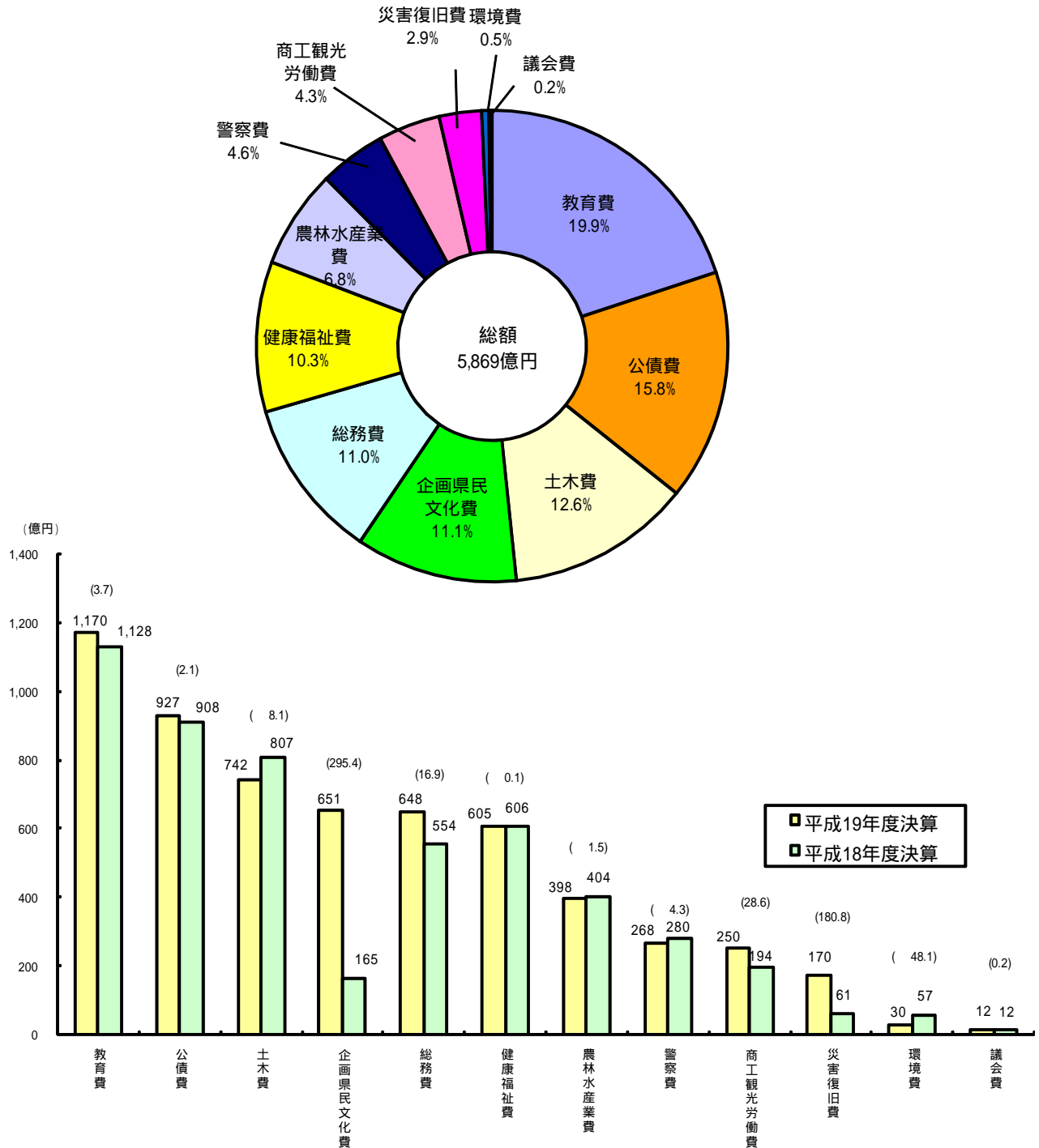


(億円)



県税は、所得税から個人県民税への税源移譲が行われた(対前年度比+80.8%、178億円増)ことや、法人関係税が5年連続の増収(対前年度比+3.0%、15億円増)となるなど、全体として対前年度比+11.1%、158億円と4年連続で増加しました。
地方交付税は、対前年度比 7.3%、102億円の減となりました。
県債は、転貸債(能登半島地震復興基金分500億円など)の発行などにより、対前年度比+88.3%、638億円の増となりました。

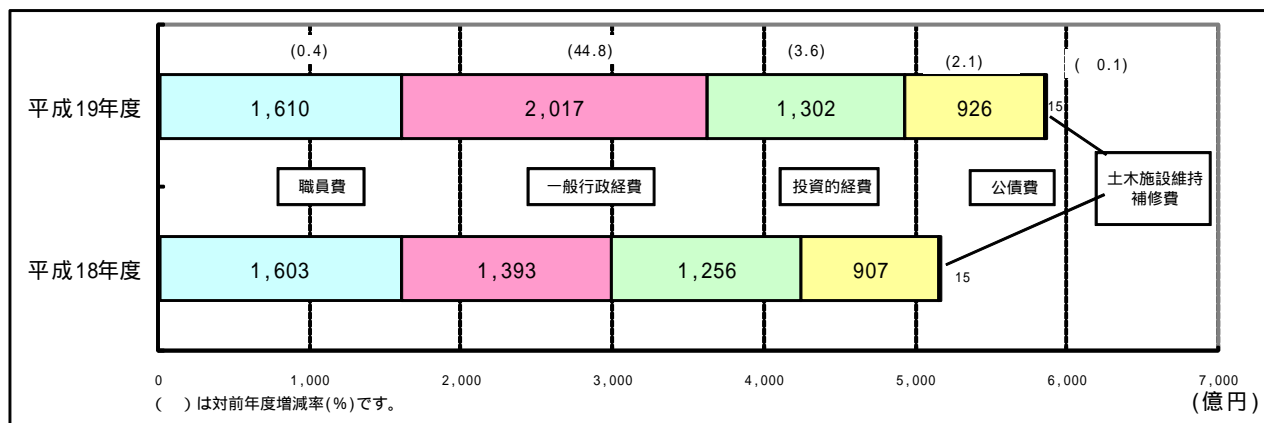
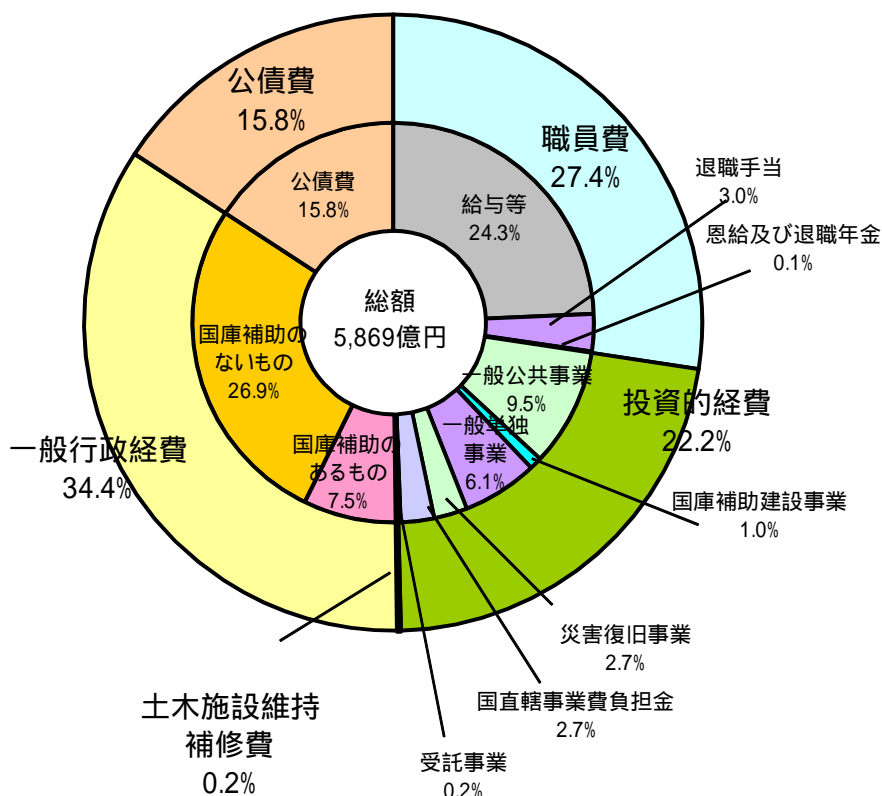
一般会計歳出の状況（目的別（款別）内訳）（H19 決算）



歳出を目的別（款別）にみると、構成比では教育費 19.9%が最も高く、次いで公債費が 15.8%、土木費が 12.6%となっています。

能登半島地震復興基金（500 億円）の設置などにより企画県民文化費が 295.4%の増となっているほか、能登半島地震関連の災害復旧事業の増により、災害復旧費が 180.8%の増となっています。

一般会計歳出の状況（性質別内訳）（H19 決算）



歳出を性質別にみると、構成比では一般行政経費が 34.4%と最も高く、職員費が 27.4%、投資的経費が 22.2%となっています。
 一般行政経費、投資的経費とも主に能登半島地震関連経費により増加しています（一般行政経費 44.8%増、投資的経費 3.6%増）
 公債費は、国の財源不足のため交付税に代わり発行した臨時財政対策債の償還が本格化したことに伴い、対前年度比 2.1%の増となりました。